

令和6年度 第4回教育研究審議会議事録

日時 令和6年9月19日(木) 14:25～15:35
場所 本部棟2階 中会議室
出席者 沖議長、中村委員、五福委員、佐藤委員、近藤委員、尾崎委員、北山委員、高橋委員、山下委員、松浦委員、村田委員(出席11名/13名)
(事務局) 西山次長、奥井課長、名越課長、吉賀班長、藤原主幹、岩佐主幹、鈴木主任

1 開 会

2 議事録の確認

令和6年度第3回教育研究審議会(令和6年7月18日)の議事録について承認された。

3 議 題

[1] 審議事項

(1) 次期理事長候補者の選考について

・事務局から資料1及び別添資料1により説明があり、原案どおり承認された。

(2) 第4期中期目標(案)に対する意見について

・事務局から資料2により説明があり、原案どおり承認された。

【質疑応答等】

(問) 大学が担うべき役割が全般的に網羅されていることから、個々の目標をどのようにつなげていくかが重要だ。学生の県内定着について、具体的な数字をどのように設定するのか難しいところである。第3期中期目標では55%だったが、入学時の県内出身者と県外出身者の学生の割合はどのくらいなのか。入学後、吉備の杜創造戦略プロジェクト等により、地域と連携して学生を教育しながら地域企業とのつながりを構築し、県内就職につなげることを目標としているが、県内出身者と県外出身者に対するアプローチは違うものになると思う。また、学部によっても異なると思われる。各学部単位で数字を出し、最終的に全体の数字を出すことになると思うが、全体のつながりはどうなっているのか。

(答) 岡山県の策定した目標は、制約がないよう包括的に設定されている。県内定着率については、第3期の目標は55%で厳しいものだった。入学時の県内出身者の割合は5割程度である。一つ一つのデータを積み上げていかなければならない。県内出身者と県外出身者と分けて設定すべきだとは思いますが、トータルとしての数字を出すほかない状況である。また、一度県外に出て、本県に戻ってきてもらうにしても、県内企業の受入体制が整っていないのが現状である。

(問) 県内定着に向けた取組を強化する一方、グローバルに活躍できる人材育成とあり、多様な志向を持つ個々の学生に適した指導が肝要である。(意見)

(問) 兵庫県立大学が授業料無償化を進めているが、岡山県立大学では無償化を検討しないのか。

(答) 受験者への影響はあまりないだろうと考えていたが、大きな影響が出ている。広島市立大学も無償化を考えていると聞いており、本学への影響は更に大きいものになると思われる。

本学は県内出身者の入学金を、県外出身者より約10万円低く設定している。兵庫県や大阪府と本県の財政状況は異なることから、本県においては注視している段階と思われるが、奨学金を手厚くするなどほかの手法も研究する必要があると認識している。

(3) 第4期中期計画(案)の策定について

- ・事務局から別添資料2により説明があり、原案どおり承認された。

【質疑応答等】

- (問) DXの充実とあるが、学生はPC端末を所有していることが前提なのか。
- (答) 入学時に購入してもらっており、CADなどのソフトは大学で準備している。
- (問) 日本の大学生は授業以外の学習時間が少ないとされているが、県立大学ではどのような状況か。
- (答) デザイン学部は課題制作に膨大な時間要し、カリキュラムを修正したが、相当量オーバーしている状況にある。特に、建築学科は膨大な時間を費やしている状態であり、デザイン学部については、学習時間が不足しているとは思っていない。
- 情報工学部では、授業改善アンケートの結果からも足りていないと思われる。
- 保健福祉学部では、実験実習の科目では毎回課題を提出してもらうようにしており、以前と比べて課題の量は増えている。
- (問) 日本の大学生は学習時間が少ない傾向にあるが、机上での学習時間のみの可能性があり、多様な場面での思考時間も含むようなアンケートを取ると、少し違う結果が出るかも知れない。(意見)

(4) 地方独立行政法人法の改正に伴う関係規程等の改正について

- ・事務局から資料3により説明があり、原案どおり承認された。

(5) 情報工学部教員の選考について

- ・事務局から資料4及び別添資料3により説明があり、原案どおり承認された。

[2] 報告事項

(1) 令和6年度岡山县立大学職員表彰について

- ・事務局から資料5により報告があった。

(2) 保健福祉学部採用予定教員の採用日の変更について

- ・事務局から資料6により報告があった。

○次回審議会は令和6年10月24日(木)14:30から開催する予定。